

事業所名 NPO法人星槎さっぽろ教育センター  
放課後等デイサービス星の音

公表:令和3年3月31日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	2	3		若者活動センターなど利用したり、文化施設など見学している。	学校との共有なので多数の目があり安全な反面行事などで使用できない日もある。
	②	職員の配置数は適切であるか	1	3	1		ガイドライン等の最低条件は満たしているが、今後検討が必要である。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		3	2	いま該当する利用児はいない。その場合は1階で支援を行う。	主に2階を利用しているため、下肢麻痺などの子どもの利用に障害がある。
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	2	2	1	互いの役割期待にズレがあるからこそ、有意義な議論が生じ、一つのチームとして機能している。	教育機関が母体となる福祉事業所なので、文化的な非対称が生じている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	1	3	1	時間がかかってもアンケートなど実施し、実践に活かすよう努めている。	送迎がないので、文書の送付など難しい場合もある。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	4	1		公表している。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		2	3	今年度の実施を期している。	現在は行われていない。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	3		2	令和3年度から3ヶ月に1度、職員・保護者を交えて実施する予定である。	令和2年度まで行われてこなかった。
適切 な 支 援 の 提 供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	5			適切に行っている	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	3	2		事業所として独自にアセスメントは行っていないが、本人・保護者の了解の下、関係機関と緊密に連携し、必要な情報を得ている。	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	1		月ごとの職員のミーティングで話し合い、プログラムを編成している。	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	4	1		月ごとの職員のミーティングで内容をつねに更新するようにしている。	
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	5			本人・保護者との面談だけでなく、学校の担任の先生、他の放デイ、相談支援専門員とも連携し課題を設定している。	
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	5			個別支援計画に個別・集団の活動を明記し、それにより支援を行い、個別支援記録もそのことを中心に記録している。職員間で協働の省察も行っている。	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4	1		日々の支援はスタッフが相談し、シナリオを作成している。	

	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4	1		構造化されたものではないが、その日支援にあたった職員で省察をしている。	以前は児発管以外は支援終了後は振り返りの時間を確保されていなかった
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4	1		昨年から連絡帳の写しを支援記録を1ページに貼り、振り返りが容易になるよう工夫している。	
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	4	1		必要に応じ、6か月を待たずにモニタリング・新たな個別支援計画を策定している。 そのための本人・保護者とのオープンダイアログにこそ意味があると考えている。	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	4	1		学習支援、美術(制作・絵画)、コミュニケーションが生じることを意識した遊び、市内の文化施設などの訪問、市内の小川や里山周辺の森の散歩など日々工夫している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	3	2		その子と一番かかわっている職員が本人・保護者との面談に必ず加わるようにしている。	児発管が主に対応している。 その子と関わりの深い職員のケース会議などへの参加はまだ実現していない。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	4	1		学校によっては、当事業所への出席をもって学校の出席に加味する配慮をいただいているところもある。このことについては一事業所と学校の関係で終わらせず、福祉と教育の有機的な連携を、行政においても模索していただきたい。そのために私たちは支援の質について厳しい自己洞察が必要であると認識	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	1	2	2	医療的ケアが必要な子どもの利用はない。	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	1	2	2	当事業所は小学校高学年から中高校生が主たる対象となるため、保育所や幼稚園との連携は行っていない。	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	5			学校のみならず、信頼できる大人の支援者(組織)につなぐまでが放デイの責務であると認識し、相談支援事業所などと連携している。	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	2	1	2	医療機関、不登校の当事者の会との連携など行っている。	不登校の子どもたちが主な対象のため行っていなかった。今後は発達精神病理学の視座で連携を深める必要性を感じている。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	1		星槎高校の学習センターと施設を共用している関係で、高校生が私たちの活動に参加することがよくある。	
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		3	2		コロナの関係もあり令和2年度は参加できなかった。令和3年度は参加したい。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5			連絡帳はもちろん、適宜事業所で相談をしている。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	2	3		構造化されたプログラムはない。オープンダイアログの視座で相談活動をしている。	

保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	5			契約時に必ず行っている。	
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	5			事業所での相談など適宜行っている	
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		2	3	令和3年度から、職員・保護者がいっしょに学び合う研修会を定期的に行う。	これまで実施してこなかった。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	4	1		学校とNPO法人が共同している関係で、実践に対する疑問や苦情は重層的に受けとめるシステムができています。	
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4		1	定期的に通信を発行している。	
	③⑮	個人情報に十分注意しているか	5			集団守秘を徹底している。	
	③⑯	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5			必要に応じ視覚的な情報による伝達も行っている。	
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1		4		特に行っていない
非常時等の対応	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	5				策定しているが、改善を要する
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4	1		学校の避難訓練に合わせて実施している。	
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	3		2		個々に楽隊防止協会などに参加しているが、職場としては行っていない。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	1	1	3		身体的拘束が必要な児童の利用はない
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	4	1		契約時に聴き取りをしている。	
④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	1	3	1		策定しているが、研修会は行わなかった。今年度は研修を行う予定である。	

◎ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。